

(対象事業：地域連携強化事業・地域文化資源整備活用事業・ミュージアム支援地域人材育成事業・国際交流拠点形成事業)

事業名：地域連携強化事業

学校と連携した鑑賞授業カリキュラムの開発と普及

事業者名：徳島県立近代美術館

住 所：徳島県徳島市八万町向寺山 文化の森総合公園

TEL：088-668-1088

FAX：088-668-7198

HPアドレス：<http://www.art.tokushima-ec.ed.jp/>

連携事業者名：徳島県内の小学校・中学校・高等学校、市町村教育委員会、徳島県立総合教育センター、鑑賞教育推進プロジェクト、福井大学濱口研究室、鳴門教育大学山木研究室

会 場：徳島県立近代美術館

事業期間：平成22年6月1日～平成23年3月15日



1. 館の使命と本事業の関係

徳島県立近代美術館は、20世紀を中心とした近現代の美術を収集するとともに、展覧会や美術館教育によってその魅力の紹介につとめている。

当館の「基本理念」には、「学校などの教育機関との連携」を深めることや、「豊かな人間性を育む場」をつくり、「地域文化の創造性」を高めていく役割が記されている。本事業では、そのような使命に基づき、教員や外部の研究者と協力しながら、子ども一人一人の鑑賞を大切にし、教師のもつ力を活かす鑑賞教育を広げることを目指した。

2. 企画内容

①事業目的

当館では、平成14年から、教員や大学の研究者とともに「鑑賞教育推進プロジェクト」という研究会を開き、学校の授業で使うための鑑賞教材「鑑賞シート」を開発してきた。授業研究会も開いて、その普及に努めており、現在、コレクションを題材とした9種類のシートが、学校現場で少しずつ活用されるようになっている。本事業は、そのような土台のうえで、より幅の広い教員の参加も得ながら取り組みやすい新たなカリキュラムをつくり、8年間の教材化と実践の蓄積も広く学校現場に伝え共有化することを目的とした。

②事業概要

・授業研究会（1回目）

新たに参加した教員に、代表的な鑑賞支援の方法を体験してもらうとともに、当館コレクションを使った授業案づくりを行う。

・各学校と美術館における授業実践 借り上げバスを活用。

・授業研究会（2回目・報告会）

実践成果の報告会。幅の広い教員や鑑賞教育に関心のある方々の参加。

報告書（『活用本』）等の作成

本事業で行った実践成果や、これまでに教材化されてきた「鑑賞シート」、授業案

・授業記録等をまとめて収録する。ホームページでは、分かりやすく「鑑賞シート」やシートを使った授業について紹介し、授業案や授業記録も公開する。

3. 事業実績

(1) 事業の主な内容及び日程

*会場はすべて徳島県立近代美術館

平成 22 年

- 7 月 3 日 [土] 打ち合わせ勉強会
* 授業研究会での発表準備と打ち合わせ。
- 7 月 31 日 [土] 授業研究会（鑑賞シートと美術館を活用する授業研究会）
* ワークショップと実践報告、新しい授業プラン(思いつき題材)の検討と模擬授業。
講演「くじらぐもにのって 美術館まで行ってみよう」濱口由美（福井大学）。
- 8 月 27 日 [金] 打ち合わせ勉強会
* 実践成果をまとめる報告書の検討。美術館における鑑賞授業についての打ち合わせ。ワークショップと講演「編集における必然性と魔法」小堀幸子（編集者）
- 10 月 19 日 [火] 吉野川市立鴨島第一中学校 2 年生の鑑賞授業
- 10 月 20 日 [水] 徳島市川内南小学校 特別支援学級の鑑賞授業
- 11 月 16 日 [火] 吉野川市立知恵島小学校 4、6 年生の鑑賞授業
- 11 月 18 日 [木] 徳島市沖洲小学校 4 年生の鑑賞授業
- 11 月 19 日 [金] 三好市立池田小学校 4 年生の鑑賞授業
- 11 月 24 日 [水] 徳島県立板野支援学校 高等部 1-3 年の美術学習グループの鑑賞授業
- 12 月 2 日 [木] 石井町立石井小学校 6 年生の鑑賞授業
- 12 月 7 日 [火] 阿南市立橘小学校 3 年生の鑑賞授業

平成 23 年

- 1 月 29 日 [土] 打ち合わせ勉強会
* 授業研究会での実践報告とワークショップの打ち合わせ。
- 2 月 8 日 [火] 授業記録・実戦報告をホームページで公開。計 2 回のアップを行った。
- 2 月 12 日 [土] 授業研究会（鑑賞シートと美術館を活用する授業研究会）
* 講演「美術館で、詩をつくる子どもたち」濱口由美（福井大学）、トークセッション（実践報告）、ワークショップ「みんなでシーがる・た」など。
- 3 月 10 日 [木] 報告書（『教師力を活かす 子どもの力を活かす 鑑賞シートと美術館の「活用本」』）を発行。
- 3 月 15 日 [火] 当館ホームページで、「教師力を活かす 子どもの力を活かす 鑑賞シートの活用術」を公開。

(2) 参加者の数

参加者人数	延べ	686	人
内 訳：	打ち合わせ勉強会	52	人
	授業研究会	127	人
	美術館での鑑賞授業	507	人



(3) 事業により作成した印刷物等

- ・「あなたも美術鑑賞デビュー！」鑑賞シートと美術館を活用する授業研究会チラシ
A4 4ページ 7000枚
- ・『教師力を活かす 子どもの力を活かす 鑑賞シートと美術館の活用本』（報告書）
A4変形（28.8×21 cm）、32ページ（抜粋、簡易印刷版） 100部 *授業研究会で配布
A4変形（28.8×21 cm）、216ページ 1,000部 *教員や美術館等に送付
内容は、「鑑賞シート」の実践報告、美術館との連携案内、美術館と学校での実践報告、エッセイ、「鑑賞シート」指導の手引きの再録など。
- ・ホームページ「教師力を活かす 子どもの力を活かす 鑑賞シートの活用術」
<http://www.art.tokushima-ec.ed.jp/gakko/kyj/>
これから鑑賞の授業をはじめようとする先生に向けて、分かりやすく「鑑賞シート」を紹介した。
- ・授業記録等のホームページでの公開
http://www.art.tokushima-ec.ed.jp/gakko/kansho_sheet.htm#tebiki
新たに11の授業記録、実践報告を公開した。

(4) 実施事業に関する新聞記事等

○ 新聞記事

- ・「美術の楽しみ方手ほどきします 県立近代美術館」『徳島新聞』2011年2月11日
- ・「美術楽しむコツ 教師に伝授」『読売新聞』2011年2月13日（徳島版）

○ テレビ、関連誌等

- ・「無理なく、たのしく - 「アートスクール」の活動から（美術をたのしむ、美術館をたのしむ その35）」『徳島エコノミージャーナル』第375号、ブレーンバンク、2011年1月
- ・「にぎやかだった「アートスクール」のご報告（美術をたのしむ、美術館をたのしむ その37）」『徳島エコノミージャーナル』第377号、ブレーンバンク、2011年3月



4. 事業の成果及び今後の課題

本事業は、次の点で成果があった。

- ① 学校の授業と美術館での鑑賞を結びつけて、さまざまな実践が行われた。とくに、制作と結びつけたり、お話やお芝居とつなげた発表をおこなったりするなど、先生方が普段試みている方法を活かすと、美術館と連携した鑑賞教育に広がりが生まれることが確認できた。そのなかの一つ、「よいアクション」という身体表現とつなげる実践は、次に作成する「鑑賞シート」の題材とすることが決まった。
- ② 本事業で当館を訪れた学校のほとんどは、美術館で鑑賞授業を行うのがはじめてであった。費用の面で実践研究に踏み出しにくいという意見もあることから、借り上げバスの活用は効果があると思われる。不安のあったはじめての美術館見学が、子どもたちの反応から喜びに変わったと語る先生もいた。
- ③ 授業研究会では、鑑賞授業をむつかしく考えて取り組めていなかった先生に、支援の方法を伝え、楽しさを実感してもらうことができた。アンケートに次のようなものがあった。
「先生方の発表を聞いて、自分も何か実践しないと！ という気持ちがすごくわいてきました。体験型のワークショップが、とても楽しくて楽しくて。」「思い切って一步をふみだして、子どもたちにも、こういう経験をさせてあげたいと思いました。」
- ④ 美術館との連携で、リーダー役となる先生方とのネットワークを広げることができた。授業研究会（2回目）では、13人の先生に発表をしていただき、10人の先生にワークショップ・リーダーをお願いした。発表やワークショップ・リーダーを「またやってみたい」という声があがるなど、充実感・達成感を感じてもらえる場となった。
- ⑤ これまで積み上げてきた鑑賞支援プログラムや実践成果をまとめた報告書を作成し、「鑑賞シート」を分かりやすく紹介するホームページができたことで、美術館と連携した鑑賞教育について説明がしやすくなった。

今後の課題

本事業では、報告書を発行しホームページも充実させ、先生方と美術館の人的ネットワークも広がった。これを活かす活動が次の課題となる。

リーダー的役割の先生からは、より充実した教材研究を求める声があがっており、コレクションを用いた鑑賞教育の研究体制を先生方と共同で構築することを展望したい。実践研究の深まりと多くの先生に普及する活動を統一した、新しい授業研究会のあり方を検討しなければならないと考えている。

